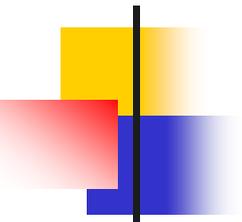


(仮称)清川記念館の 新たな運営方針

文化課

平成18年6月27日



建設予定地の状況

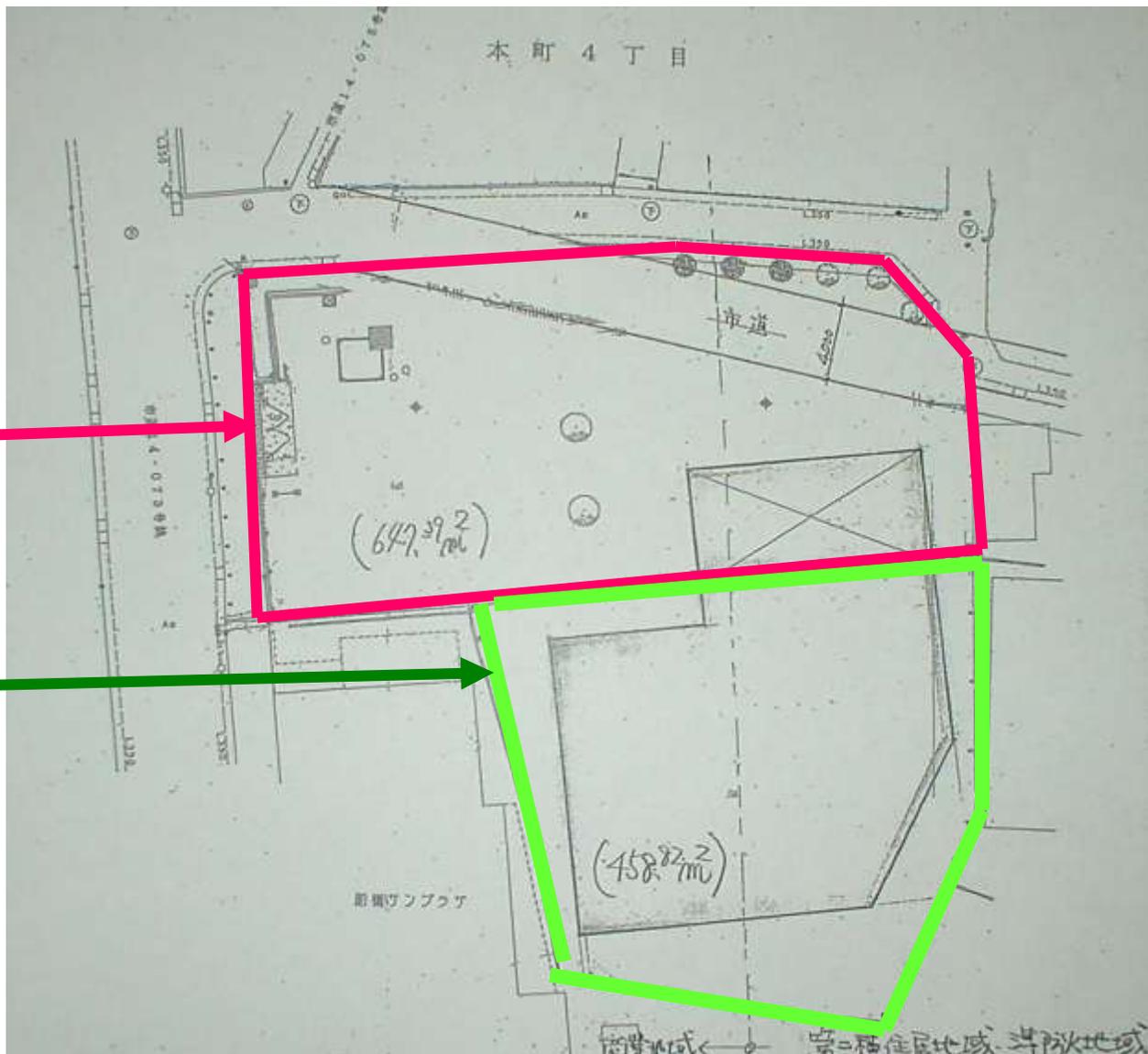
所在地：本町4丁目1259-2

(勤労市民センター隣接地であり、山口横丁に接している本町4丁目公園内にある。)

全体敷地：1106.21㎡

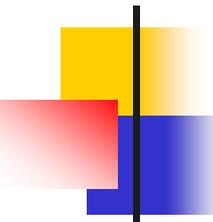
(文化課管理地458.82㎡に隣接公園面積647.39㎡の建ぺい率上限12%相当部分を加えた面積を建設予定地としている。)

建設予定地の状況



みどり管理課
公園

文化課管理地



これまでの(仮称)清川記念館 運営方針 (平成18年1月25日付け文書による)

- ① 船橋の新しい文化の発信の場
- ② 美術教育の普及
- ③ 清川コレクションの活用
- ④ 博物館法による登録博物館としての活動

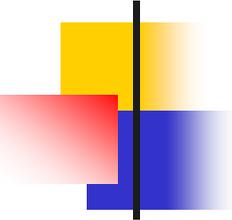
この運営方針の改善すべき点

「事業の具体性がなく、印象が薄い」

「市民への貢献度が少ない」

「事業に魅力が少なく、指定管理者の受け皿がなくなる可能性がある」

→建築設計者の選定にあたり、新たな運営方針を考える。



(仮称)清川記念館設立目的

設立の目的を明確にして、美術館の効果を示す。

(仮称)清川記念館は、市民が美術を中心とした幅広い分野の芸術について楽しみ、学び、参加し、芸術家と交流することのできる場を創る。

この活動を通して、市民の文化的生活に寄与し、芸術にかかわる人材の育成を図るとともに、地域と連携してまちづくりを支援する。

(仮称)清川記念館の新たな運営方針

① 船橋の新しい文化の発信の場

美術館が芸術家・芸術関連団体・NPO・国内外の美術協会等と連携して学芸員・芸術家等と市民の交流を幅広く促し、芸術家・市民の芸術活動を支援して、船橋から新しい文化を発信する。

② 美術学習支援の場

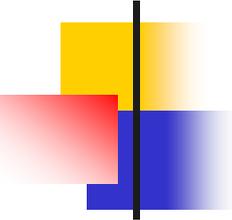
大人から子どもまで、市民が芸術を身近に楽しみながら学ぶことができる場とするとともに、市内教育関連施設・文化施設などと連携し、エデュケーター(教育的学芸員)及び市民交流員を中心とした教育ボランティア制度、市民学芸員制度によって指導者を育成し、プロ及び市民芸術家の育成・支援をして、船橋に根ざした芸術的人材の育成を図る。

③ まちづくりの場

市民がボランティアや市民学芸員に参加し、博物館活動に参加するとともに、地元企業・商店街・NPO等と連携を図った企画を行うことによって地域活性、まちづくりに貢献する。

④ 清川コレクション等の活用

創意を凝らした魅力ある企画展等を開催するとともに、清川家から寄付を受けた資料等、収蔵コレクションを適切に保存し後世に伝え、収蔵資料展を開催して活用する。



運営方針を実現する具体的運営①

企画展の開催(展示場)

- 優秀な学芸員・スタッフにより、創意を生かした魅力ある企画展を開催する。
 - 清川コレクションなどを活用した企画展
 - 公募型による新進作家の企画展
 - 地元商店街との共同企画による町ぐるみ美術企画展
 - 市民の要望に即応した企画展
 - 学芸員、スタッフの創意による魅力ある企画展
 - その他

具体的運営②

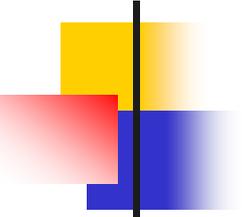
学習支援活動の実施(多目的室)

- 幅広い芸術とのコラボレーションを促進した演出空間によって楽しみながら芸術に親しむことができる場。エデュケーター(教育的学芸員)により、芸術家と市民を橋渡しして、市民に寄り添う教育活動を実施する。また、市立学校等と連携した青少年美術教育に、大学・専門学校と連携した教育ボランティア制度を導入して美術専門教育を促進し、将来、市から芸術家の輩出を図る。
 - 美術講演会
 - 美術に興味のある児童生徒対象美術講座
 - 親子美術教室
 - 成人向け美術講座
 - 美術ワークショップ
 - 学校との連携による出前美術講習会
 - アート・カフェ事業

アート・カフェ事業とは何か？

市民が展示場で絵画等を鑑賞しながらアルコールも含めた飲食ができる、食と芸術のコラボレーション事業と位置づける。

- 「アートランチ」・「アートディナー」高齢者等成人向け企画：
著名なレストランなどと提携して高級感ある食事を提供し、市民が学芸員や芸術家の話を直接聞いたり、作品について語り合ったり、魯山人に代表される食と芸術について楽しく学んだりすることができる場所。
- 「アートパーティー」若者向け企画：
芸術作品を映像や音響、照明効果によってショウアップし、様々なアーティストがコラボレーションできるような場として芸術作品を多角的に演出するとともに、飲食しながら楽しめる話題性の高いデートスポット。
- 「親子アニメランチ」親子(祖父母孫)向け企画：
錯視によるだまし絵やアニメ手法などを応用した芸術により驚きを演出したり、料理自体を作品として鑑賞、賞味したりして芸術体験ができる場。
- 企業など、協賛団体の優遇制度として、接待したりパーティーを開催したりできる場とし、美術館と地元企業との関連を深め、支援を得る。貸しギャラリーの打ち上げの場。



具体的運営③

ギャラリーとしての貸し出し

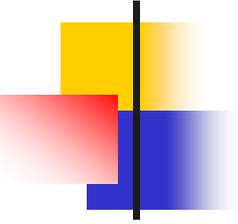
- 新進作家の支援を目的とした貸し出し
- 一般貸し出し

具体的運営④

美術研究活動

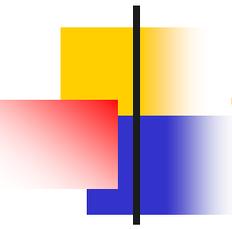
(多目的室:公開工房による芸術家の創作活動公開)

- 椿貞雄 他、船橋市に関連した芸術家などの研究
- 芸術家派遣交換事業(アーティスト・イン・レジデンス事業)



- 芸術家派遣交換事業(アーティスト・イン・レジデンス事業)とは何か？

国際的な芸術家の派遣交換を促進して著名な芸術家を招聘し、世界の芸術家と市民との交流や、公開工房による創作活動公開などを行い、芸術による国際交流を図る。



具体的運営⑤

庁内美術品の管理

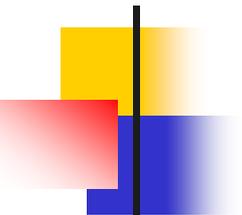
- 庁内美術品の一体管理
- 美術品寄贈の対応

具体的運営⑥

市民交流活動

市民交流活動とは何か？

- 教育ボランティア制度による、市民の学びと芸術に関する指導者育成
- 市民学芸員制度による、市民の展示企画・運営
- 市民交流員による、NPOなどとの連携と、まちづくり推進



スタッフの役割

■ 美術学芸員の役割

……保存、展示企画、アーティスト・イン・レジデンスなど：芸術に関する専門的調査・研究の結果を資料管理、展示、事業企画に活用し、質の高い情報を発信することにより美術館の信頼性、格を高め、市民の学習を支援する。

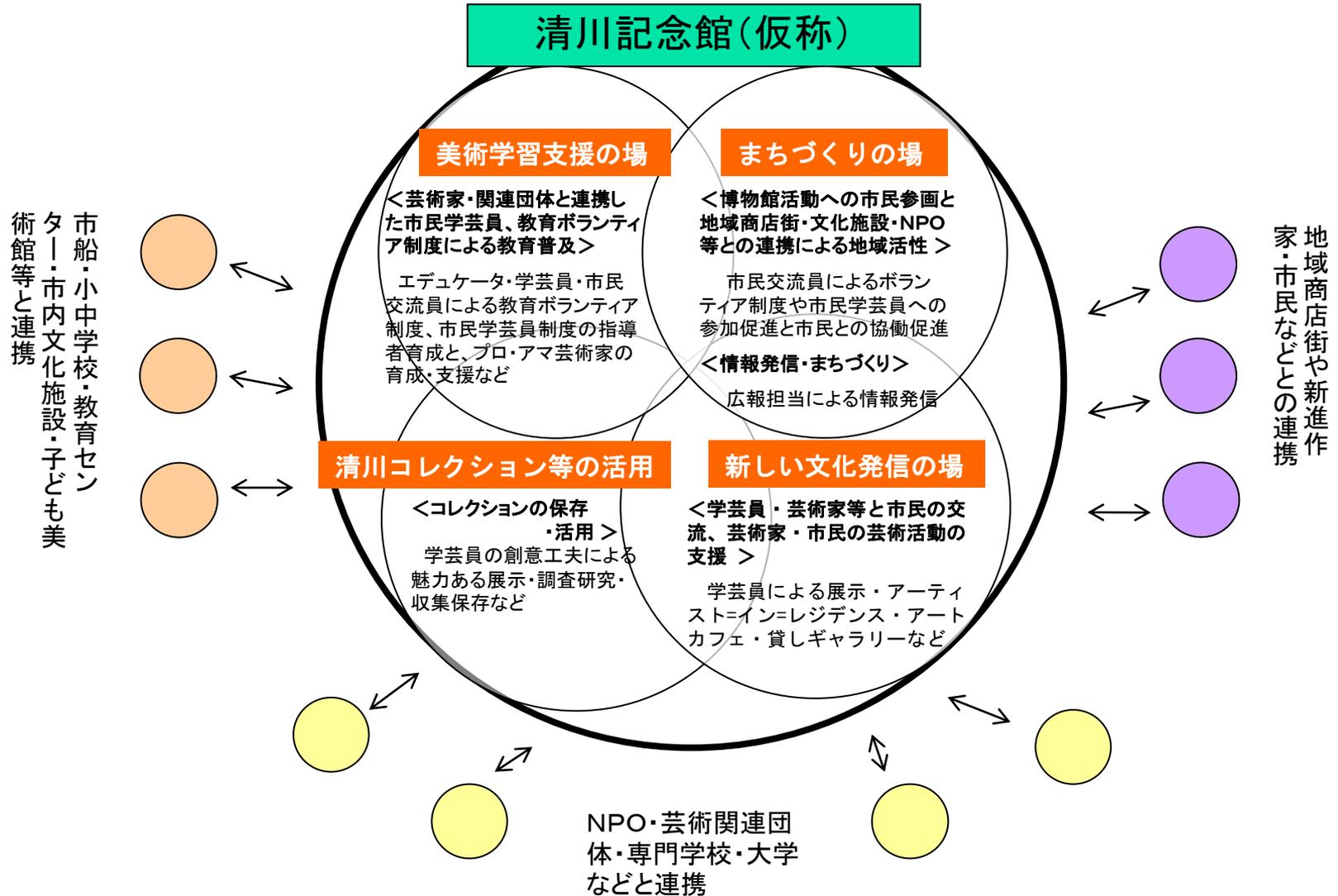
■ エデュケーターの役割

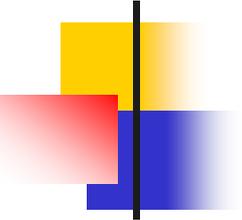
……美術教育、アート・カフェ、展示など：博物館学、博物館における教育学に造詣が深く、専門的な事項を市民の立場に立って分かり易く示す。そのための展示、教育普及活動などのコンテンツを開発し、市民のための学習支援の核となる。

■ 市民交流員・広報担当の役割

……ボランティア、市民学芸員、まちづくり対応、広報担当など：市民交流担当者は調整能力及びファシリテーション能力に優れ、ボランティア制度、市民学芸員制度、NPOとの協働の窓口となる。また、エデュケーター、学芸員と協力して、ボランティア、市民学芸員の研修を担当する。広報担当は、ウェブデザイナーを兼ねた広報・営業を行う。

(仮称)清川記念館の運営方針の概念図

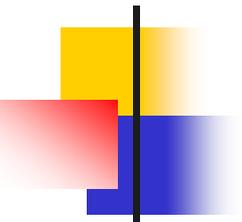




施設の概要

建築延べ床面積: 1,000m²

三階建てとし、収蔵庫、展示室、多目的室(アート・カフェ、公開工房を兼ねる)、市民交流室、倉庫、ロビー、事務室等管理関係スペース等を配意する。



建設スケジュール

平成18年度

建設事業者選定委員会を開催し、
プロポーザル方式による設計者の決定

平成19年度

基本設計・実施設計

平成20年度

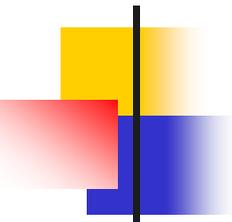
建設工事会社の契約・工事着手
条例の制定

平成21年度 竣工

平成22年度 開館・記念企画展

新たな運営方針の特徴

- 「まちづくりへの貢献」: 市民交流員を配置し、関連団体やNPOなど市民と美術館との協働を推進する。
- 「学習支援の強化」: エデュケーターを配置した効果的な美術教育と市民交流員によるボランティア制度、市民学芸員制度によって、市民の美術学習支援を一層強化する。
- 「身近で快適なアートの提供」: 芸術に触れながら飲食のできるアートカフェを設置することにより市民の快適性及び事業収入を高めるとともに、広報担当者を配して広報・営業活動を活発化させ、指定管理者制度の導入しやすい運営を計画する。
- 「芸術家支援を通じた国際交流」: アーティスト・イン・レジデンス事業により芸術を通じた国際交流を促すとともに、船橋市から海外へ著名な芸術家の輩出を促進する。

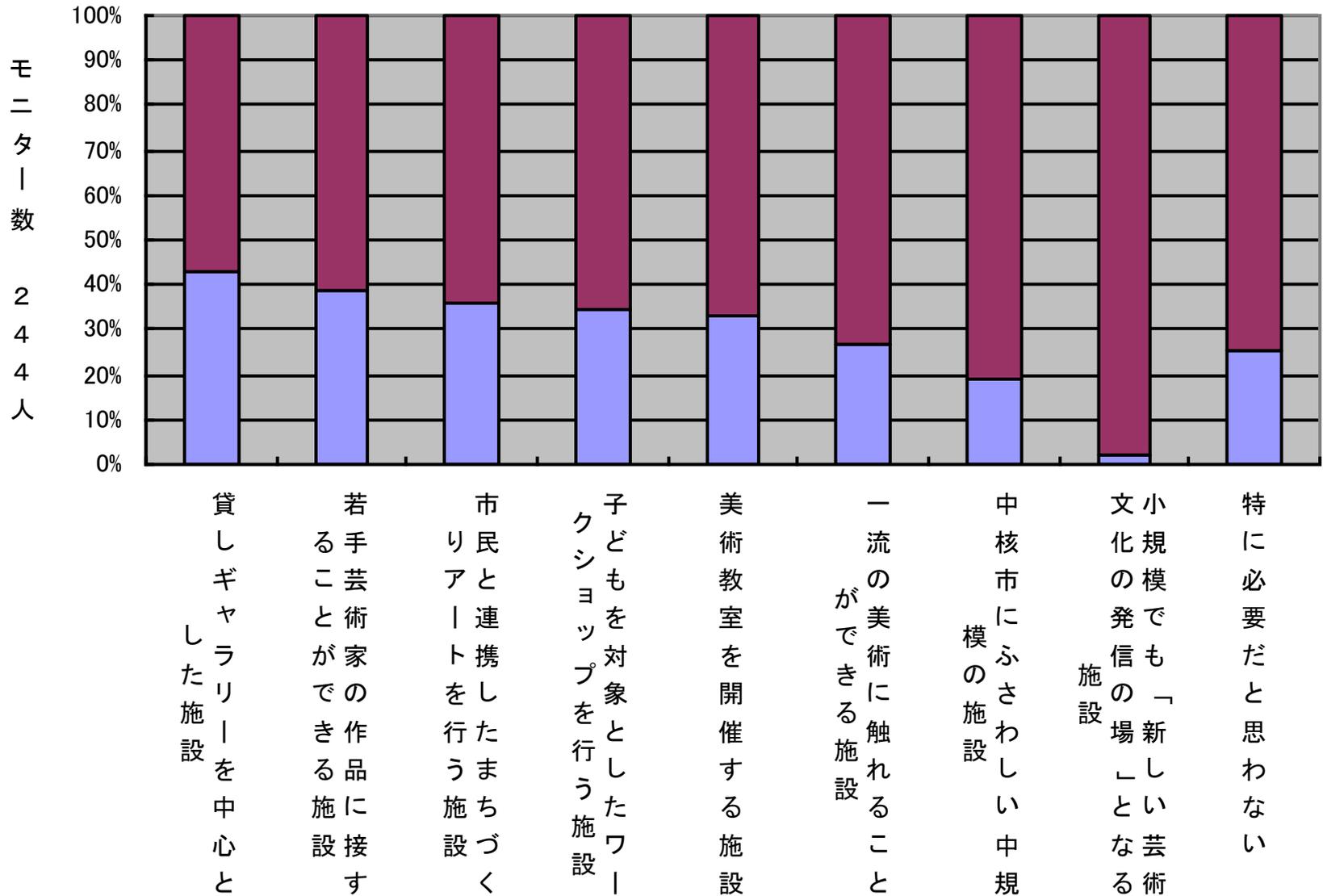


政策としての美術館の機能

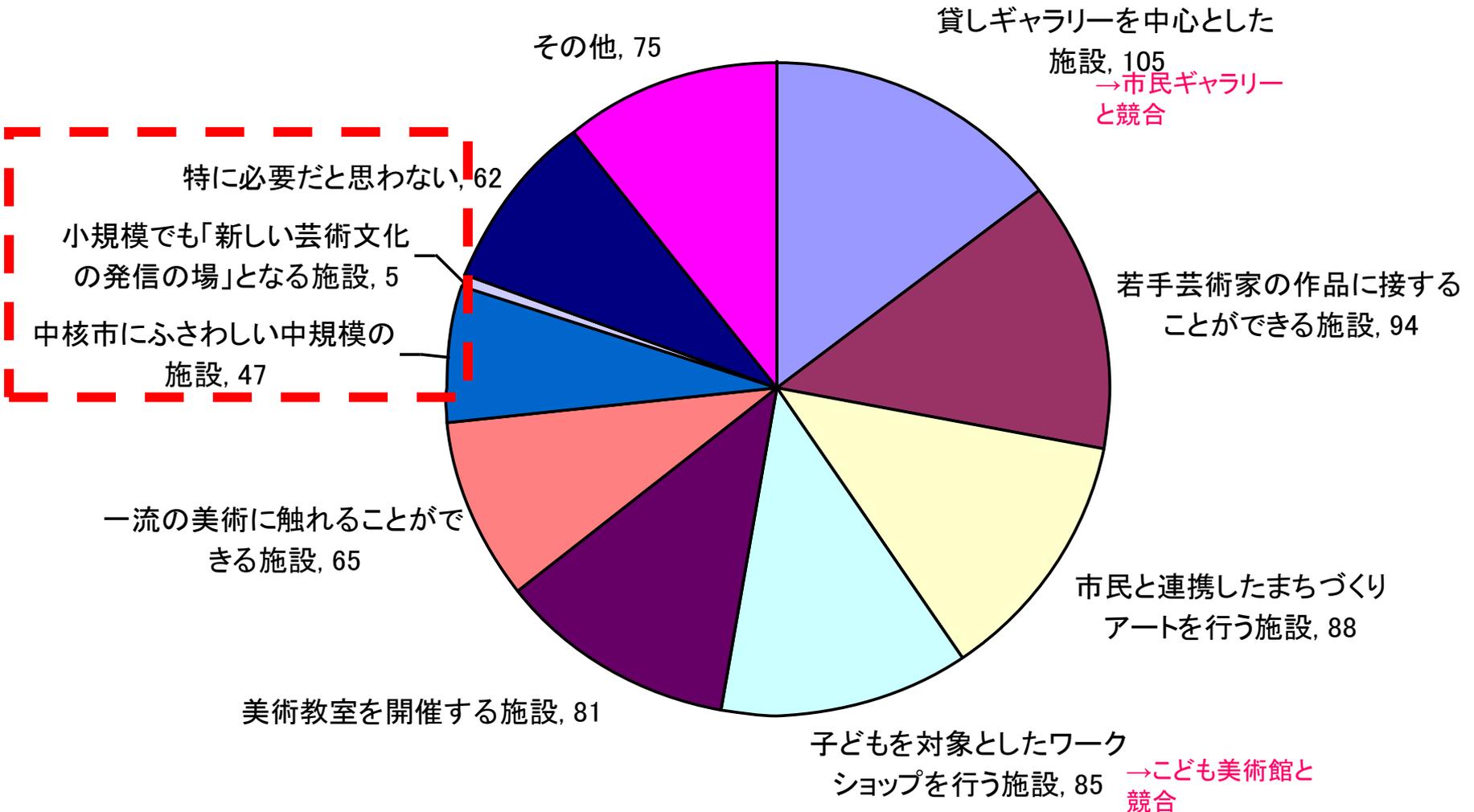
- **地域密着型美術館**: 今回提案した運営方針のような、いわゆる博物館活動(調査研究・収集保存・展示・教育・地域連携)を中心とする。→教育委員会所管が多い
- **収蔵型ギャラリー**: これまでの運営方針は、コレクションの保存、公開を中心とした活動により、コストを抑えている。
- **都市の活性化創出策としての美術館**: 将来ビジョンを持ち、新規性・独自性によって市の文化的・芸術的個性を発信し、船橋から世界に情報を発信する。小さくても強い光を放つ美術館。→全庁的に行う必要あり

市民はどのような美術館を望むか

平成17年度市政モニター結果より



市民はどのような美術館を望むか



新たな運営方針による 美術館の将来の懸念

- 新たな運営方針による美術館設立は、運営コストがかかるため、将来、美術館の入館者数や入場料収入の多寡が大きな問題として論議され、行政内部から「館の存続を検討すべき」と指摘される可能性がある。
(収入は予算の10%以下:問題点、コレクション・駐車場・企画展等)

- これまでの運営方針のように、最低限の人員により(館長を含め3名)運営すれば、運営コストがかからず、運営費の問題が少ない。

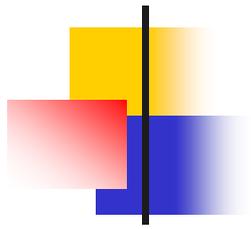
→上記のいずれを選ぶか?は良く考えておく必要がある。新たな運営方針を選ぶ場合は、設立に当たる覚悟が共通理解として必要だと思う。

新たな運営方針による美術館 設立に当たる留意点

- 目的意識の共有:「美術館が市民にいかに貢献するか」ということを最大の目標とし、これを充分踏まえたうえで入館者数、入館料収入だけでなく「(仮称)清川記念館4つの運営方針」に基づく評価を重視すること

- コストについての共通理解:「施設運営経費の縮減分を人材の確保と魅力ある事業の開発に予算をしっかりと付ける」という考え方によってソフトを充実させる。

- 将来的展望を論議する:都市活性創出策として「市民と地域に貢献できる美術館」に発展させる船橋市独自の美術館将来構想を策定すること。



清川記念館(仮称)将来構想への提言

—「アートを核とした市民参加のまちづくり構想」—

①「フナバシ・アーティスト育成計画」:市民による プロ・アマ芸術家の育成機能

美術館を中心として地域芸術関連組織、団体、市民を緩やかに繋ぎ、芸術家と市民の全国的ネットワークを形成し、船橋でプロ・アマ芸術家や指導者を集積・育成する。そして、そのような人材が、さらに人材を集め、育て、全国にアートシーンを変えていくような情報を発信していく。

②「フナバシ・アート・カフェ計画」:市民参加の場としての機能

美術館(アートカフェ)で市民がアートを楽しみ、芸術家と語り、芸術家を通して社会を考えるサロンを形成する。また市の景観や芸術環境について語らうことにより、市の芸術環境政策にも間接的提言ができる。

③「フナバシ・デザイン工房計画」:まち全体をデザインする機能

美術館がまちのアート・マネージメントを促進し、まち全体を絵画のキャンパスとして市の景観をデザインし(フィールド・アート・ミュージアム)、市民参加のアートを核としたまちづくり政策を推進し、全国に情報を発信していく。そして、美術館が地域の文化的な資質を高めると同時に社会関係資本を蓄積して、他市から移り住みたいと思われるようなまちづくりに貢献し、結果として地域の経済・社会的発展を目指す。

3つの機能が関連しあって、相乗効果を生み出し、まちづくり・都市環境の改革に貢献する

「フナバシ・アーティスト育成計画」

フナバシから芸術家を育てるシステムの構築

- 市民と学芸員・芸術家等との触れ合いの場とする。そのため、本物志向の芸術を体験しながら芸術的素養の涵養を図ることとし、大人や特に美術に関心の高い子供、また親子連れを主たる対象とする。
- 子供の頃から力量ある芸術家と触れ合える場とする。また、エデュケーター及びボランティア担当員を中心とした教育ボランティア制度・市民学芸員制度により、地域のNPO・芸術家、芸術関連団体・大学・専門学校などと連携して指導者を育成し、芸術への関心の高い子供を育成することにより、長期計画で市から芸術家の輩出を目指す。
- 成人してからも将来にわたってボランティア・指導者としてかわりを持ってもらう等、プロ及びアマチュア芸術家の育成・支援のしくみを作り、船橋に根ざした芸術的人材の育成を図る

「フナバシ・アート・カフェ計画」

市民がカフェでアートを楽しみ、芸術都市フナバシづくりを語る

- 展示と映像や音響などおしゃれな芸術空間としてのカフェ「アートカフェ」によって、市民がエドゥケーター・学芸員・芸術家等の話を聞き、作り、飲み、食事しながら自由に語り、アートを楽しむことのできる大人の芸術サロンとしての機能を持たせる。
- アートカフェにおいて、「アートを核としたまちづくり構想」について、市民参加によるフォーラム（論議の場）を設け、景観デザインの意見を交換し、論議を広く公開するとともに政策提言とし、「芸術への市民参加（Public Engagement with Art）」を促す。市民が美術館で話し合い、指定管理者がまとめて市に提言し、市民主導の新しい公共を創造する。

「フナバシ・デザイン工房計画」

■ **アートマネージャーの市全体の総合デザインによるイメージアップ**

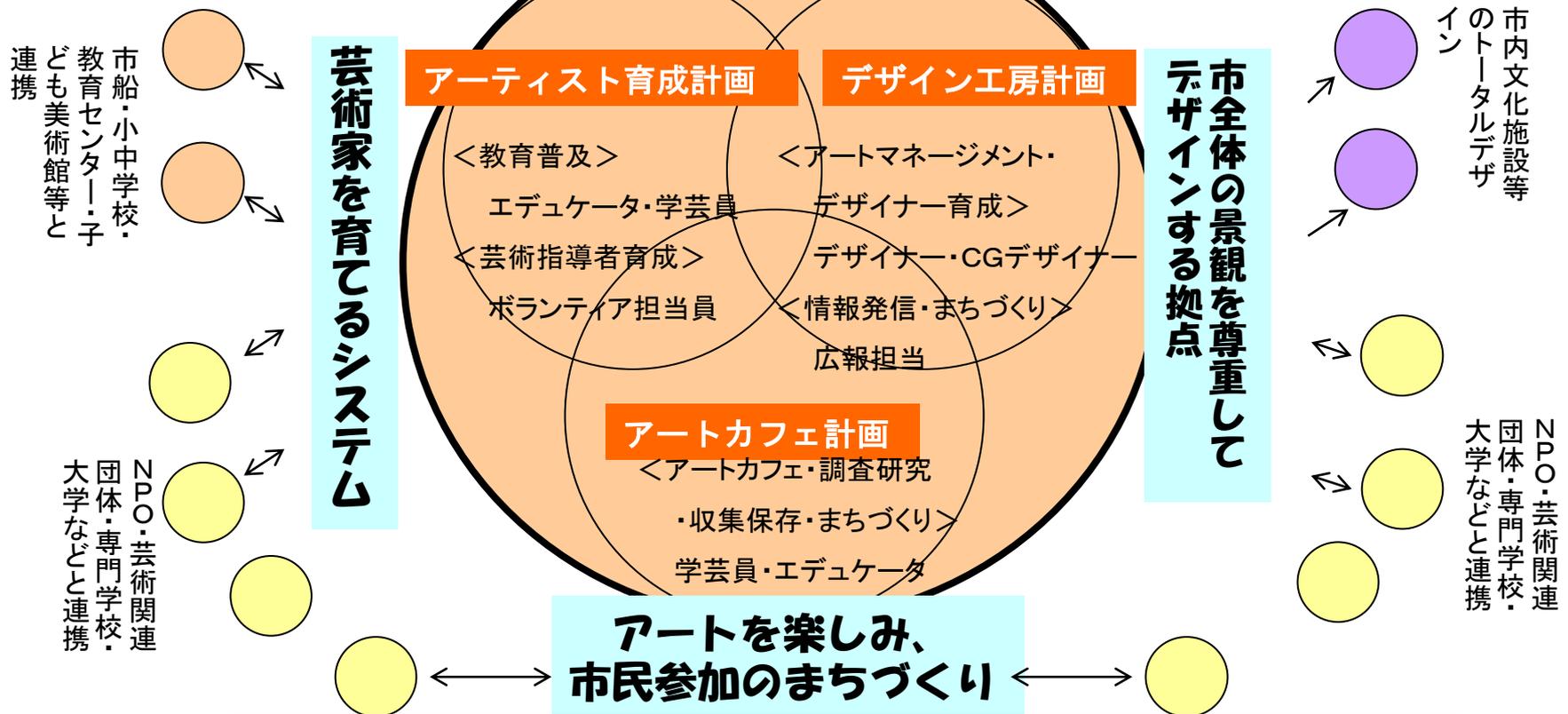
■ **力量あるデザイナー及び広報専門家によるデザイン工房を美術館に設置し、市内文化施設の広報デザインを、アート・マネジメントにより統一の取れたインパクトのあるものとして市の文化的なイメージアップを図る。**

■ **市民の芸術活動を指導、支援しながら、市内全ての文化施設の広報デザインに積極的に登用し、プロ・アマデザイナー等の発表の場として広報媒体を利用し、市民中心の芸術を発信する。市民芸術家などの作品もプロのデザイナーがアレンジして広報媒体に載せることで発信する情報の質が向上し、市の文化的イメージアップに繋がるとともに、「フナバシ・アーティスト育成計画」に貢献する。**

■ **「フナバシ・アート・カフェ計画」と連動して、芸術家・NPO・関連団体・市民・大学・専門学校等と協働して、市全体をトータルデザインして行政に提言し、アートを核としたまちづくりに貢献する。**

アートを核とした 市民参加のまちづくり構想(概念図)

■清川記念館(仮称)



美術館で市民が運営に参画し、相互に学習を支援しあう。また、市民のまちづくりに関する話し合いの場(景観フォーラム)を提供して、行政の意思決定に市民参加を促進し、新たな公共を創造する。→独創性・創造性ある美術館